



世界遺産

世界遺産とは

世界遺産は、1972年の第17回UNESCO総会で採択された世界遺産条約（正式には『世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約』）の中で定義されています。世界遺産条約は、人類全体の世界の遺産を破壊等の脅威から保護し、将来の世代へ伝えることを確保する観点から、国際的な協力・援助体制を確立することを目的としています。また、締約国は、世界遺産登録された資産について、保全、整備し、将来の世代へ伝承する責務を有します。

2012年7月現在、世界遺産条約の締約国数は189カ国で、日本は1992年に125番目の締約国として世界遺産条約を批准しました。

世界遺産の分類・登録数

世界遺産は大きく文化遺産、自然遺産、複合遺産の3つの種類に分けられます（図1）。世界では合計981の世界遺産が登録されており、その内訳は、759の文化遺産、193の自然遺産、29の複合遺産となっています。また、国別の世界遺産登録数はイタリアが49と最も多く、次いで中国が45、スペインが44、フランスとドイツが38となっています（2013年6月現在）。

日本における世界遺産

日本では13の文化遺産と4つの自然遺産が世界遺産に登録されています（図2、2013年6月現在）。最近では、2013年6月に富士山が文化遺産として登録され、注目を集めました。

文化遺産（13件）

1	法隆寺地域の仏教建造物 [奈良県：H5]
2	姫路城 [兵庫県：H5]
3	古都京都の文化財 [京都府：H6]
4	白川郷、五箇山の合掌造り集落 [岐阜県・富山県：H7]
5	原爆ドーム [広島県：H8]
6	厳島神社 [広島県：H8]
7	古都奈良の文化財 [奈良県：H10]
8	日光の社寺 [栃木県：H11]
9	琉球王国のグスク及び関連遺産群 [沖縄県：H12]
10	紀伊山地の霊場と参詣道 [三重県・奈良県・和歌山県：H16]
11	石見銀山遺跡とその文化的景観 [島根県：H19]
12	平泉—仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び関連の考古学的遺産群— [岩手県：H23]
13	富士山 [静岡県・山梨県：H25]

自然遺産（4件）

1	屋久島 [鹿児島県：H5]
2	白神山地 [青森県・秋田県：H5]
3	知床 [北海道：H17]
4	小笠原諸島 [東京都：H23]

図2 日本の世界遺産 ※（ ）書きは所在県及び世界遺産一覧表記載年

世界遺産

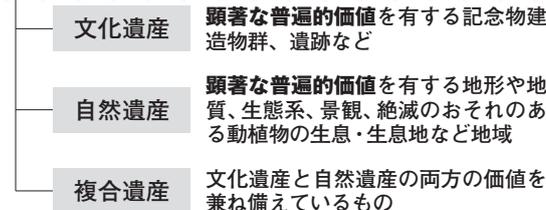


図1 世界遺産の分類

世界遺産の登録までの流れ

世界遺産条約を締結した国は、将来世界遺産リストに登録する計画のある資産を「暫定リスト」としてUNESCOに提出します。その暫定リストの中から、1年に1つの資産を世界遺産候補としてUNESCOに推薦することができます（2011年までは2つの資産の推薦ができた）。2012年には「富岡製糸場と絹産業遺産群（群馬県）」が世界遺産候補として推薦されています。

世界遺産登録を目指す

『明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域』

現在、幕末における西洋技術の導入以来、非西洋地域で初めて重工業化による発展を遂げた日本の重要遺産群として、『明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域』の世界遺産登録を目指す取り組みが行われています。本資産は九州、山口などの全8エリア28の複数の資産から構成され、同じ文化・歴史群が全体で価値を有するものとして推薦される形態（シリアル・ノミネーション）が取られた日本で初めての世界遺産候補です。また、三池港（図3）や八幡製鉄所、三菱造船所など、現在も稼働中の産業遺産が含まれているという点でも、日本で初めての世界遺産候補となります。2013年秋にUNESCOへの推薦書提出、2015年に世界遺産登録を目指しています（8月現在）。



図3 三池港の資産の構成要素